

第1回おだわら森林ビジョン 策定検討委員会

経済部農政課
令和2年7月3日

おだわら森林ビジョン策定の趣旨

- 本市では、平成23年度に地域の森林・林業・木材産業に携わる方々を中心に構成する「おだわら森林・林業・木材産業再生協議会」を設置。
- 本協議会の設置から令和2年度までの10年間において、川上から川下までの関係者と連携を図りながら多様な取組を展開。
- これまでの取組を振り返りながら、次の10年、さらには50年、100年後を見据えた小田原ならではの森林の将来像とその基本的な指針について示し、次世代に継承すべき豊かな森づくりを進める。

これまでの本市の取組



おだわら森林ビジョンの構成と期間

基本構想

- 基本構想では、小田原の森林の50年、100年後の将来像やこれを実現するための取組の方向性を示します。
- 森林の育成には長期間を要しますが、本ビジョンは、行政計画という性格も有することから、その計画期間は概ね20年とします。

基本計画

- 基本計画は、基本構想で定める理想とする森林の将来像を実現するための取組の方向性を体系的に示す、10年を一期とする計画です。

実施計画

- 実施計画では、基本計画に基づき、実施する事業について具体的に提示します。
- 計画期間は5年間とし、財政状況や社会情勢の変化などに対応しながら、内容の見直しを行います。

おだわら森林ビジョンの構成と期間

基本構想

- 基本構想では、小田原の森林の50年、100年後の将来像やこれを実現するための取組の方向性を示します。
- 森林の育成には長期間を要しますが、本ビジョンは、行政計画という性格も有することから、その計画期間は概ね20年とします。

基本計画

- 基本計画は、基本構想で定める理想とする森林の将来像を実現するための取組の方向性を体系的に示す、10年を一期とする計画です。

実施計画

- 実施計画では、基本計画に基づき、実施する事業について具体的に提示します。
- 計画期間は5年間とし、財政状況や社会情勢の変化などに対応しながら、内容の見直しを行います。

小田原市の森林を取り巻く現状と課題

小田原のアドバンテージ

- 森里川海、あらゆる自然環境を備えている。
- 豊かな自然を有しながら、首都圏内に位置しており、交通至便性に優れる。
- 自然だけでなく、昔から城下町・宿場町として栄え、木工業などが盛んな土地柄。
- 他地域と比較して、川上～川下までの距離が近く、相互に連携・協力している。
- 関係者との「つながり」により、森林・林業・木材産業の様々な取組が、着実に進行。

小田原の課題

- 県の水源環境税等により、森林整備は進んではいるものの、地域間に偏りがある。
- 生産森林組合や財産区が比較的多く、森林の所有構造が複雑。
- スギ・ヒノキ等の人工林率が高く、森林の多様性が比較的低い。
- 森林資源量、木材流通規模、木材生産能力等を考慮すると、大規模化は難しい。
- 市民は森林への関心はあるが、市の取組等についてはあまり知られていない。

おだわら森林ビジョン基本理念 理想とする森林の将来像

将来像 次世代へとつながる豊かな森林

- 森林は、水源のかん養、災害防止、木材や林産物の提供など様々な機能を有しており、市民の安全・安心な暮らしを支える最も基本的な資源。
- また、多くの動植物に生育環境を提供するなど、生物多様性の基盤となっている森林を豊かにすることは、小田原の森から海まで地域全体の生態系の保全につながる。
- さらには、レクリエーションや森林環境教育などの場としても、森林は重要。
- 小田原が誇る多様な人材、多様な活動を生かしながら、これらの取組を市内外に普及啓発し、多くの人々がにぎわい、感動を与える森林を目指します。

森林の将来像を実現するための4つのビジョンへ

理想とする森林の将来像を実現するため、念頭に置くべき3つの視点

小田原の特色を生かす

森づくりは人づくり

市民に開かれた森

おだわら森林ビジョン基本理念 4つのビジョン

ビジョン1 市民の安全・安心を守る小田原の森

- 首都圏内にありながら、一定規模の森林を有し、かつ19万人の人口を擁する本市は、市民の暮らしと森林が共存する、公益性の高い**都市型の森林の実現**が求められている。
- 一方、本市の**森林の約7割がスギ・ヒノキ等の人工林**であり、木材生産を中心とした利用形態となっている。
- そこで、木材生産のみならず、**より公益性の高い多種多様な森林の育成**を図り、**市民の安全・安心な暮らしを守る森づくり**を目指す。

○ 関連する取組例（イメージ）



森林整備の着実な実施



森林資源データ等の活用



森林における鳥獣害対策

おだわら森林ビジョン基本理念 4つのビジョン

ビジョン2 多様な生物を育む小田原の森

- 国土の約7割を森林が占める我が国では、**生物多様性の保全について、森林が果たす役割は非常に大きい。**
- 本市においても、森林が市域の約4割を占め、**多くの生物の生息環境を提供している。**
- しかしながら、本市の森林は人工林率が高く、単一的な樹種構成となっているため、針葉樹の人工林から、広葉樹への樹種転換を図るなど、**様々な生物が生息する多様な森づくり**を目指す。

○ 関連する取組例（イメージ）



多様な樹種への転換



環境部と連携した森林生態系調査



役割に応じたゾーニング

おだわら森林ビジョン基本理念 4つのビジョン

ビジョン3 多くの人交流する小田原の森

- 古くから城下町・宿場町として栄えてきた本市には、様々な人材が豊富に存在し、顔の見える関係を築くとともに、森林を活動のフィールドとして利用している。
- さらに、アウトドアなどのレクリエーションの場や森林の少ない都市部との交流の場としても、可能性を秘めている。
- 市街地や都市部に近い利点を生かし、多くの人交流・利用する開かれた森づくりを目指す。

○ 関連する取組例（イメージ）



川上から川下までのつながり



都市部との交流



森林空間利用

おだわら森林ビジョン基本理念 4つのビジョン

ビジョン4 市民とつくる小田原の森

- 森林・林業・木材産業に係る取組を継続していくためには、市民が森林に興味・関心を持ち、この取組に参画していくことが、非常に重要である。
- しかしながら、市民への意識調査では、森林に興味・関心は持っているものの、その取組についてはあまり知られていないという結果となった。
- そのため、森林環境教育や地域産木材の利活用など市民が森林に積極的に関わることのできる機会を創出し、市民と協働した森づくりを目指す。

○ 関連する取組例（イメージ）



指導者の確保・育成



森林環境教育・木育



小田原産木材の利活用

今後のスケジュール（案）

年 月	令和2年									令和3年						
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
				上旬			上旬		中旬		中旬					下旬
議会・検討委員会	おだわら森林ビジョン 策定検討委員会 設置			第一回おだわら森林ビジョン 策定検討委員会			第二回おだわら森林ビジョン 策定検討委員会		第三回おだわら森林ビジョン 策定検討委員会		おだわら森林ビジョン(案) 議会報告					シンポジウム開催
				中旬			中旬		下旬			中旬	下旬	上旬	下旬	
森林ビジョン策定作業				ビジョン案作成			関係各課への照会 (内容確認・関連事業確認)		ビジョン案作成			パブリックコメント募集開始	パブリックコメントに係る 関係各課との調整	市長・副市長報告(確定)		公表